

（１）活動（実践）内容

○ 3年 「Stevie Wonder – The Power of Music」 10/10

○ 「書く」

○ 具体的な指導方法や活動

本校は全校生徒250名の比較的小規模な学校であり、生徒は、素直で優しく、まじめで仲が良く温かい集団である反面、競い合うことを避けようとする傾向がある。また、幼い頃より固定化された人間関係が形成されており、自分に自信がもてない。あいさつや発表の声も小さく、表現力に乏しい。また、他者と積極的にかかわることが苦手である。

このような実態から本校の校内研修では、教育目標「共に生き、共に育ち、共に学ぶ」の「共に」をキーワードに、他者と積極的にかかわり、自他共に存在価値を見だし、自分もまわりの友達も大切にして自信をもって行動できる「自己有用感」の高まった生徒を育てようと、幼小中地域の連携も図りながら、取組を進めている。特に、教育目標の中の「共に学ぶ」ことに焦点を絞って他者とのかかわりを大切にした学びを通し、自己の思考力の広がりや深まり、表現力の高まりから成長を実感できるようにしようと考えた。そこで、「単元（題材）構想の工夫や言語活動を充実させる取組を計画的に組み込んだ『自己との対話』『他者との対話』を通して、思考力や表現力を高め、学びを評価する振り返りを通して、生徒は自己の成長を実感できるのであろう。」という研究仮説を立てて、以下の活動に取り組んだ。

① 「学習形態・活動方法の工夫」

・習得と活用を繰り返しながら定着を図り、さらにその力を発揮して発展的な課題をクリアできるように、「対話」を効果的に取り入れた学習形態を工夫した。

・「対話」を効果的に取り入れた授業は、「アクティブラーニング」を意識したものである。

② 「自己との対話」

じっくり自分に問いかけ、自分と向き合って考えることを大切にする。他者と対話しているときにも、相手の言葉をどう受け止め、どう答えるのか、常に自分の中で考えをめぐらす。

③ 「他者との対話」

固定されたグループでの対話だけでなく、ペアや小グループでの学習、ジグソー学習やワールドカフェ形式等の学習など、意図的にグループを組み替えて学習することで、より多くの考えや異なる考えに触れ、自分の考えを広げ、深めていく。

④ 「ホワイトボード」の活用

他者との対話を活性化させる手段として「ホワイトボード」を用いて交流する。

「ホワイトボード」を使ったグループワークを紹介する。

Lesson 5 のまとめ学習で、関係代名詞（who、which、that）を使ってグループで表現する活動を行った。

①生活班になり、教師のキーワードに関して、必ず関係代名詞を使った文をみんなで相談しながら、作っていく。制限時間内に、その文をホワイトボードに書く。その文の内容に合う絵も描く。教師の合図で一斉に見せる。

②ユニークな文を考えた班は、1ポイント。（現実離れた意味の文でもよい。）同じような文が

他の班でも考えていたら、相殺され、0ポイントになる。

③書く人は、ローテーションしていく。

④最終的に、一番ポイント数の多い班が優勝。

(2) 成果・課題

例えば「friend」のキーワードに対して、「I have a friend who can play the piano well.」などというありきたりの英語ではおもしろくないので、「I have a friend who can run faster than Shinkansen.」などという英文も登場する。そして、陸上部のエースが新幹線より速く走っている絵が描かれている。

おもしろい英文を作ろうと班で考えるので、班内で意欲的に話し合うことができた。

また、班内での教え合い学習になるので、つづりを教え合ったり、文法を教え合ったりして、英語が得意でない生徒も参加できた。

3年からの英語を指導することが多いが、1年生の英語からつまづいている生徒を多く見かける。「受け身」の指導では、主語に対する be 動詞がわからない生徒が複数いたし、3年生になっても、鏡文字を書いたり、大文字小文字の区別がつかなくなったり、書いてある単語を正確に書き写せなかったり、単語と単語をくっつけすぎて書いてしまう生徒が複数いたりした。また、「must」と「most」という target sentence で学習したであろう単語の区別（視覚認知）さえできなかった生徒もいた。

これは、空間認知能力がしっかりと身に付いていないためだと思われる。4月の市教研で、1年生の2学期から英語を苦手とする生徒が増えるという報告があったが、これは、「文字を使うようになる」が増えるから起きているのではないかと思う。

生徒の視覚認知力を育てるために、1年生のうち、教師が四線黒板を使って板書したり、定期テストでも四線に書かせたりして文字指導をしっかりと行うことが重要であると考えます。

また、高校1年で英語が苦手な生徒が増えるという報告もあった。これは、高校生になり単語量が増えるからではないのだろうか。そして、高校の教科書の後ろには中学校の教科書と違い、語彙の意味が載っていない。

中学校では2年生で辞書指導をするようになっている。だから、この指導を通して素早く辞書を引かせる習慣をつけさせ、高校英語に繋げていくことが大切である。